

地産地救 -高齢農家の手間を減らす！かんたん野菜価格決定アプリ-

背景

現在**産直コーナー**で個別に価格を決めて野菜を売ろうとすると大きな手間がかかる

産直コーナー(値札発行までの既存システム)



自身の情報の読み取り



野菜の選択

産直コーナーとは

スーパーの一角や道の駅などにある生産者(主に地元の農家さん)が自分で作った農産物や加工品を、消費者に直接販売するスペースのこと

現在産直コーナーは規格外野菜と呼ばれる品質の差が大きい野菜が売られることが多いが
大きさや品質の違いがあっても同じ値段に設定されてることが多い



価格と個数の入力



シール(値札)の発行

別々の値段にするには、都度野菜の選択、価格と個数の入力をしないといけない

「個別の価格設定は手間がかかるため、全ての野菜を同じ価格で販売している」という農家の方の声を伺い、野菜の外観から適切な価格を決める仕組みがあれば、その助けになると考え**「地産地救」**の開発に至りました。

実証実験

松江高専祭(10/4)にてご高齢の小規模農家の方に協力してもらいました。

初めての使用なのでまごつくことはありましたが一通り操作でき、出品まで行えました。



協力してくださった農家の方

今までなんでも対面でやってきたから、機械を使うのは慣れなくてめんどくさいなって思ったけど、案外おもしろいなって思いました。慣れたらもっと楽しく使える気がします。

将来性があり十分実用的であることが実証された！

概要

タブレットで野菜の写真を撮るだけ。登録された大きさと比べて大きさに応じた適正価格を自動で提案し、値札シールも発行します。

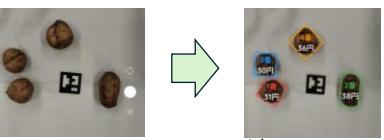
登録(未登録時)



この内容で登録する



撮る



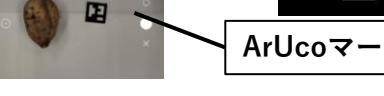
決まる



ポイント



1.正確なサイズ測定



OpenCVのArUcoマーカーで、撮影距離に左右されず野菜の**大きさを精度よく測定**し、価格に反映します。



ArUcoマーカー

一袋単位で撮影し
一袋の値段を印刷



貼る

2番80円



個別で修正も可能

2.高齢者に優しい操作性



ボタンや文字を大きくし、基本音声入力に。

デジタル機器が苦手な方でも、**手軽に操作**できます。

ボタンや文字を大きくし、基本音声入力に。
デジタル機器が苦手な方でも、**手軽に操作**できます。

今後の課題

- 傷等の品質も考慮した価格を写真を撮るだけで決定できるように。
- 産直コーナーで使用してもらえるものに。

まとめ

- 音声入力や大きいUIなど手軽で高齢の方に寄り添ったアプリにした。
- 実証実験を経て現在のアプリは十分に実用的なものであることがわかった。